



news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
[URL] <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2022年4月15日

報道関係各位

延べ160団体を支援

北海道の水辺の環境保全を「い・ろ・は・す天然水 555mlPET」が応援

「北海道 e-水（イーミズ）プロジェクト」

2022 年度支援団体決定 & キックオフミーティング開催

北海道コカ・コーラボトリング株式会社（本社：札幌市清田区 代表取締役社長：佐々木康行）は、2022 年 4 月 19 日（火）、本年度の支援団体として採択された 6 団体が活動内容について発表し情報共有するための「2022 年度北海道 e-水プロジェクト キックオフミーティング」を下記の通りオンライン開催いたしますので、ご案内申し上げます。

「北海道 e-水プロジェクト」は、2009 年 11 月、北海道と当社との間で締結した「環境保全に関するパートナーシップ協定」に基づき、北海道の豊かで美しい「水」を中心とした自然環境を守り次世代へと引き継いでいくことを目的とし、北海道、公益財団法人北海道環境財団、当社の三者協働で取り組むプロジェクトです。



北海道e-水プロジェクト



当社が販売する北海道の天然水「い・ろ・は・す天然水 555mlPET」の売上の一部を（公財）北海道環境財団に寄付し、道内各地域で水辺の環境保全活動に取り組む団体および流域ネットワークの活動を支援するもので、2022 年度で 13 年目を迎え、これまでの支援団体数は本年度含むと延べ 160 団体となります。

今年は、コロナ禍における感染拡大防止を図るとともに、多くの方々に同プロジェクトを知っていただくことを目的に、オンライン開催の様子を後日 You Tube にて配信いたします。

【2022 年度北海道 e-水プロジェクト キックオフミーティング 概要】

日時	2022 年 4 月 19 日（火） 14:00～16:15
開催方法	オンライン開催（後日 You Tube にて配信）
You Tube アクセス 方法	北海道 e-水プロジェクトホームページからアクセスしてください。（後日アップ予定） <北海道 e-水プロジェクトのホームページ> https://www.heco-spc.or.jp/emizu/index.html
内容	2022 年度採択団体が活動内容を発表：e-水コース（上限 200 万円）6 団体 ※しずくコース（上限 10 万円）16 団体については、事務局がまとめて報告する予定です。 ※各団体の詳細については別紙をご参照ください。
主催	北海道、公益財団法人北海道環境財団、北海道コカ・コーラボトリング株式会社

■ 2022年度 支援団体（敬称略、順不同）

- 対象となる事業：道内の水辺（川、海、湖沼など）において環境保全活動を行う非営利の団体（または流域ネットワーク）が行う事業。

＜例＞水辺のプラスチックごみ等に関する啓蒙活動や清掃活動、水辺の多様性保全・希少種保護、水環境保全につながる植樹、学習・体験会、水質浄化など

- 対象となる期間：2022年4月1日～2022年11月30日に実施される事業

<e-水コース（上限200万円）>

No.	団体名	事業名	活動地域	事業概要
1	オホーツク魚類研究会	コンクリートで平らに固められた川のためのポータブル魚道	美幌町	川の氾濫から橋などの構造物を守るため、川底をコンクリートで平らに固めてしまうことがあります。こうした工事によって、川の水の流れは速くなり、水深も極端に浅くなります。その結果、サケなどの大型魚が川を移動することが難しくなりました。本活動では、地域住民とともに、持ち運びができる資材を利用してサケが川の上流に移動できるようにします。
2	釧路自然保護協会	釧路川流域におけるイトウ生息環境再生と個体群復元の取組	釧路川流域（釧路市）	釧路湿原や釧路川流域で50年、100年先も絶滅危惧種イトウに代表される魚類群集や生態系が将来にわたって、健全な状態で存続し続けていくため、本事業では、釧路湿原自然再生事業（魚道整備など）による河川環境再生や産卵床等の調査をおこなう。また現在、繁殖が途絶えている支流については、あわせて飼育施設における生息域外保全や絶滅支流への再導入の取組を進める。
3	小松前川支流環境保全ネットワーク	いにしへの水辺を守る（小松前川支流環境保全活動）	小松前川支流（松前町）	小松前川の本流は、日本海に注ぎ主産業の漁業を支える源となっている。また、支流は松前公園を縦断し、松前城の内堀に流れ込む貴重な源流となっている。この流域ではかつて稲作が行われ、ホタルが生息する自然豊かな環境にあった。しかし、時代の変遷とともに農地が荒廃しホタルも姿を見せなくなった。当該活動は、十数年前にホタルの棲む自然を取り戻そうと流域の清掃活動を発端に、環境美化活動を小規模に進めてきた。近年ホタルの数は少しずつ増えてきたことから、活動の輪を広げ、環境教育や総合学習の中で、地域固有のさくら風景とホタルが棲みつく環境保全、主産業を支える魚付きの森、観光資源としての活用に資する。
4	認定NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	水及び湿地に親しむ環境教育	サロベツ地域（豊富町・幌延町）	利尻礼文サロベツ国立公園のサロベツ湿原と砂丘林は、豊富町から近い位置にあり、子どもたちが湿地や湖沼について学ぶのに最適な環境にある。本活動では、子どもたちに湿原を地上と上空からの観察により湿原の全体像を把握してもらい、湿原や砂丘林の湖沼群やそこに生息する水鳥や水生生物を観察し、ゴミ清掃などの保全活動を行うことにより子どもたちに湿原や湖沼群の重要性について認識してもらう。
5	特定非営利活動法人 人まち育てI&I	残そう味わおう！湿地の文化と食～スゲの縄とエゾカンゾウ料理、環福連携の試み～	道央地域（石狩・空知・後志）	湿地に関わる文化と食を体感して楽しんでもらい、また湿地再生活動に携わってもらうことで、湿地の大切さや魅力を知る人を増やし、湿地の自然環境と文化を未来に残していこうと思います。今年「湿地に生えるスゲを使った縄文化を残す」、「湿地を彩るエゾカンゾウを美味しく食べて健康になる」をテーマに体験会と植物の増殖活動を行います。増殖活動は、福祉・療育・医療分野とつないで、「環福連携」を推進していきます。
6	深川ひきがえるマスターズ	外来生物アズマヒキガエルの駆除	深川市	1.アズマヒキガエルを地域から排除する活動 ①繁殖する池で成体（カエル）・卵・幼生（オタマジャクシ）を徹底的に捕獲・除去。 ②繁殖池の近くの放置された古い池を重機で取り壊す。 ③池の周囲の除草・枝払い等の環境整備。 2.情報発信・普及啓発活動 市民が自由に参加できる公開駆除日を設けるほか、会報特別版チラシ、ホームページ、マスコミ取材などを通して、外来生物やその駆除に関する情報を広く発信。

<しずくコース（上限 10 万円）>

No.	団体名	事業名	活動地域	事業概要
1	あさひかわサケの会	石狩川の環境保全と生態系の回復を通して、石狩川上流部での野生サケ資源の回復事業	旭川市	「石狩川を野生のサケのふるさとに」の願いを基に、石狩川水系の河川環境回復保全活動の実施や市民向け学習会・講演会・サケ遡上見学会等のイベントを企画実施することなどを通して、『河川環境保全の大切さ』を広く市民に訴え、その普及啓発活動を行っている。また、産卵床・遡上サケの生態調査（産卵床・ホットヤレ調査）や湧水調査の実施を通して、国交省北海道開発局旭川河川事務所などの行政機関との情報交換を行っている。
2	旭山自然調査隊	水辺の命 私たちの守るもの	札幌市	旭山の森や集水域の生き物の繋がりを知り、水辺の生き物と森について学び考えます。川、沢、池、湧水といった異なる水辺環境で暮らす生き物を調査し観察することにより、水辺の環境が多くの生き物に利用されていることを知ってもらいたいです。主な活動は近隣の児童で、児童が自ら環境を保全する意義や方法を考え、実際に活動します。その内容を広くお知らせすることで、来園する多くの方々にも活動の輪が広がっています。
3	一般社団法人小樽セイリングクラブ	海から行く、小樽市赤岩海岸クリーン活動	赤岩の海岸線（小樽市）	2021年に実施したビーチクリーン活動の範囲を拡大し実施するのに加えて通年の活動として洋上に漂流するゴミを回収します。SUP（スタンドアップパドル）やゴムボートでオトマイ海岸に上陸し、去年より範囲を広げてビーチクリーンを実施し、同時に普段の活動拠点である祝津海岸を陸上からビーチクリーンします。今年から新たにシーズンを通して、祝津沖で各団体のボートにゴミ回収袋を常時搭載して、漂流ゴミを回収します。
4	河川愛護団体リバーネット21ながぬま	小鳥のさえずりが聞こえる河畔林づくり	長沼町 千歳川右岸	千歳川河川敷地内で、生態学的混播・混植法により、直径3mのサークル15箇所に、本団が種から育成した種類の違う苗木を植樹します。
5	北見エコスクールSDGs協議会	常呂海岸クリーン活動	北見市 常呂海岸	本活動はオーソーク圏で数少ない海水浴場のひとつである「ところ常呂ビーチ海水浴場」を有する北見市常呂自治区の海岸で実施する清掃活動を通じ、プラスチックごみ問題をはじめとした環境問題と市民生活の関り等について学び、参加者の環境保全意識を高めることを目的としています。
6	黒松内ぶなの森自然学校運営協議会	朱太川を未来につなぐプロジェクト～いきものさがし・ゴミ拾いを通して～	朱太川流域	より多くの地域住民にこれまで以上にプログラムの本質を伝えるコンテンツづくりや情報発信を行い、地域内のプログラムへの理解や関心を高める活動を行う。そのことにより、地域全体での生物多様性における保全活動の機運や協働関係づくりを目指す。体験した子どもたちが、未来の子どもたちに、朱太川やそこに棲む生き物と触れ合える場や機会を創出するようになる。
7	こどもEcoらぶ（一般社団法人はっぴー福祉会）	こども水質保全【グリーンでお水がきれいになるかな？植生浄化法のピオトープ環境美化】	当別町	【お水をきれいにするには？どうしたらいいかな】この答えのヒントになるように、環境にやさしい排水処理の方法を、未来を担う子どもたちが学ぶ場を提供します。温生植物やお花を植えて、植物による水質浄化を実践し、動植物の観察を行い、生物多様性について検証します。水辺を整備し植生浄化（人工湿地化）により、こどもインクルーシブ公園のピオトープの、水質保全及びピオトープ環境美化を行います。障害のある子どもや虚弱な子どもも参加できるように、フィールドに加え、屋内においても水棲動物のフィギアや絵を用いて、視覚を通じた学びの場も設定します。
8	コトモくらす	水辺から再発見！「水辺de幼稚園」	旭川市	「川は危険だけど楽しいところ」と実感する市民を増やすことを目的とし、幼児や小学生が地域の川で遊び、地域の自然や生き物について学ぶプログラムを実践しながら、学びを深めるために事前や事後にワークシートを配布し、室内で水生生物についてふりかえりを行う。また、WEB上に画像や動画などのコンテンツをUPし、いつでもどこからでも何度でも学ぶことができる環境を提供する。
9	特定非営利活動法人沙流川愛クラブ	豊かな河川環境の復元調査	沙流川中・下流域	沙流川では二ホンウナギの生息が確認されています。これはごく限られた河川のみです。またシヤマモの水揚げ・産卵が特徴的な河川で、加えてサケ・マス類も豊富に遡上することも知られています。生息動植物・自然景観のバリエーションは他に類のない個性的な河川です。日高山脈に源流を發し、原始の河川・自然環境の一端を残す一方で、現代社会とのバランスを維持し続けているといえます。他方、自然災害の頻発や産業振興や生活利便のため、河川・自然環境も姿を変えつつある中、残された良好な河川・自然環境を後世に残すために、住民自らの手で、希少な動物（魚類）の調査・保全を行い、豊かな自然環境を未来へつなぐ取り組みです。
10	渚滑川水系資源教育推進実行委員会	滝上ウキウキリバー探検隊	渚滑川水系流域（滝上町）	渚滑川水系の流域に暮らす子どもたちに対する環境教育と、環境教育を担える地域の人材の発掘と育成を行います。環境教育は、令和3年度に実施した内容を更に進化させ、滝上町の子どもたちに加え流域の紋別市、近隣の興部町、雄武町、西興部村の子どもたちも対象として拡大し、体験学習を中心とした教育プログラムを実施します。また環境教育を担える人材の発掘と育成は資源調査を兼ねた実践的な研修会を行います。
11	水車・アヤマ川自然公園を育てる市民の会	水車・アヤマ川自然公園の魅力発信	伊達市	昭和58年（1983年）の開園以来、伊達市民や各種団体が取り組んできた「公園をつくる」活動から「公園を育てる」活動へ移行しました。改めて会の活動を広く紹介し、公園の魅力を地域住民に周知するため、パンフレット等を作成し自然観察会等を実施します。
12	地域協働まちづくり会議高栄小学校区きずな	高栄南公園ピオトープ環境整備	高栄南公園（北見市）	ピオトープとして保全された、公園内の池をピオトープとしての価値の低下と景観の悪化により、身近な親水体験が出来なくなっている現状を改善する為、本年度も漆・泥の人力・機械的除去、池の底面の整理、岸辺の整備を行うとともに、小中学生を対象とした「環境保全レンジャー」を募集して、環境調査と昆虫や魚などの生物調査を行い、地域の子供たちや住民が水辺に親しみ、環境学習の実施ができる場にするための活動を実施する。

※「しずくコース」つづき

No.	団体名	事業名	活動地域	事業概要
13	手稲さと川探検隊	札幌手稲の水中生態調査 ～手稲の川をのぞいてみると～	星置川ほか (札幌市)	コロナ禍で、大人数で密な活動が制限される中、一人でも多くの方に札幌にも自然があり、身近な自然に生き物が多く生息していることを知ってもらおう。 できる限り、自然に触れ、身近な自然を感じ、癒され、認識を深める活動を提供する。そこから、自然を身近に感じ、その保護の大切さを学んでもらう。
14	安春川たんけんクラブ	安春川を親子で楽しみ・学び・守ろう！	安春川流域 (札幌市内)	安春川は、私たちの町の中に静かに流れる人工河川です。小さいながらも魅力的な景観で地域の憩いの場として親しまれる、ずっと大切にしていきたい水環境のひとつです。その安春川を守る小さな活動として、親子で清掃活動に取り組み、地域への愛着や社会奉仕の心を育む機会とします。また、この規制対象になる見通しのアメリカザリガニの駆除をかねて、幼稚園や小学校に捕獲個体を寄付し、生物観察・水環境保全を学ぶ機会とします。
15	山の水族館 リニューアル10周年記念事業 実行委員会	ところ川ガサガサたいけん	常呂川水系 河川流域 (北見市内)	北見市内の常呂川水系の川で水生生物を探し、採取をする（ガサガサしに行く）ことで、川にはどのような生き物がいるのかを自然体験を通して発見してもらう活動。身近な川にどんな生物がいるかなどの発見や疑問などから河川環境についての学びを得てもらおう。 また、山の水族館の記念事業の一環として実施し、館長が講師を務めることで、参加者が採取した水生生物の一部について、水族館内の特別企画展として館内に展示する。
16	両爬の生態系をかんがエル 札幌市南区チーム	札幌市南区周辺・ アズマヒキガエル調査および防除対策費	札幌市 南区・清田区	札幌市南区北ノ沢周辺で確認されている国内外来種アズマヒキガエル。旺盛な食欲は地面徘徊性の昆虫に、またヒキガエルの持つ毒は北海道在来の両生類への影響が強い。在来両生類が多い札幌市南区でヒキガエルの増加を防ぐために、①ヒキガエルの分布把握、②生態系や人間生活に対する影響の検討、③外来両生類の存在及び影響についての市民への啓発活動、④分布拡大の防止及び防除方法の検討等を行い、常に科学的に状況を検討する。



(昨年度の採択団体活動風景)

当社は、「北の大地とともに」をスローガンに、どさんこ企業として、北海道の魅力をさらに高める活動、地域課題解決への協力、次世代を担う子どもたちに将来の地球の姿を考える場の提供、安全で安心な地域づくりを応援する取り組みなど、事業活動を通して継続的に推進してまいります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・サステナビリティ推進部

担当：千葉 TEL 011-888-2091

■ 参考 1 活動の源である「い・ろ・は・す 天然水 555mlPET」について

- ▶ 北海道で販売される「い・ろ・は・す 天然水 555mlPET」は当社札幌工場の地下、深さ約 300 メートルの井戸からくみ上げた札幌市清田区南西方向にある白旗山方面から長い年月をかけて深い地下をゆったり流れてきた天然水で、厳しい品質管理を経て皆様にお届けしております。
- ▶ リサイクルペット素材を 100%用いた“100%リサイクルペットボトル”を使うことで、「ペットボトルを資源として循環利用する“ボトル to ボトル”^{※1}」、「石油から新規に製造されるプラスチックの使用を削減^{※2}」、「ペットボトル 1 本あたりの CO₂排出量を 49%削減」の 3 つを実現し、環境に配慮された製品として販売しております。

※1 使用済み PET ボトルを回収・リサイクル処理したうえで、PET ボトルとして再生し、飲料の容器として用いること

※2 「い・ろ・は・す 天然水」の従来品 555ml との比較

■ 参考 2 北海道e-水プロジェクト とは？

- ▶ 北海道には豊かな水資源とそれを取り巻く美しい自然があります。この北海道の恵まれた水とそれを含む自然環境を道民全体で保全し、未来に引き継いでいくため、道民、事業者、行政の協働のもとで地域における水辺の環境保全活動に取り組む事業が「北海道 e-水プロジェクト」です。
- ▶ エコロジーをイメージする「e」と「きれいな水」というイメージを重ね合わせ、「北海道 e-水（イームズ）プロジェクト」と名付けました。
- ▶ 2010 年から始まった同プロジェクトは、これまでの 12 年間で延べ 138 団体を支援、寄付金額も累計で 142,735,490 円となり、活動の輪は全道一円に広がっています。

■ 参考 3 累計寄付金額

2008～2020 年 寄付額実績	133,694,583 円	
2021 年 寄付額	9,040,907 円	
寄付額累計	142,735,490 円	内) 北海道 e-水プロジェクト 118,357,295 円

■ 参考 4 「令和元年度 未来へつなぐ！北国のいきもの守りたい賞」受賞（2020 年 1 月）

- ▶ 「北国のいきもの守りたい賞」とは
北海道が 2017 年度に創設した制度で、北海道における生物多様性の保全及び持続可能な利用を推進するために、道内で生物多様性の保全等に関して、優れた活動・模範的な活動を行う企業、団体、個人を表彰するもので、「北海道 e-水プロジェクト」と「白旗山での森づくり」の 2 つの当社活動が表彰されました。
- ▶ 当社活動の評価ポイント
『水を使った製品を製造する会社として、流域や森林、豊かな自然環境から高品質な水が得られるという確固たる 想いを自社商品にこめて、生態系の保全などに取り組む団体をサポートする「北海道 e-水プロジェクト」の仕組みを 評価しました。また、製品の水源である白旗山を活用した環境教育では、関係機関との連携もみられるほか、たくさんの方が参加されています。10 年目を迎えた「北海道 e-水プロジェクト」をはじめ、今後も「水」をテーマとした生態系保全の取組への支援が進化し続けることを期待します。』

(※北海道 HP より引用)



(授賞式の様子)



(企業部門 賞状)

■ 参考5 「北海道e-水（イームズ）プロジェクト」歴代支援団体の活動エリア



2022 年度支援団体は団体名を記載：赤字は e-水コース（上限 200 万円）、青字はしずくコース（上限 10 万円）